

S01-2 薬学部3年生に対する臨床薬学基礎実習の取り組み：  
文献評価とプロフェッショナルライティング

○小川 竜一<sup>1</sup>

<sup>1</sup>明治薬大

明治薬科大学では平成26年度より薬学部3年次の全学生を対象に臨床薬学の基盤を築くための実習（臨床薬学基礎実習）を実施している。この実習には医薬品情報検索、臨床検査値の解釈、文献評価、プロフェッショナル・ライティングなどが含まれ、学生は標準治療や医薬品情報を検索するスキルと各種臨床検査値（身体所見も含む）を正しく解釈するスキルを習得したうえで、臨床研究論文を批判的に吟味するトレーニングへと移行する。実習に用いる論文は医薬品の有効性を検証した前向き比較試験とし、割り当てられた論文について、文献評価のワークシートに沿ってグループ内で批判的吟味を体験する。文献評価の翌回には当該医薬品のモノグラフ作成を行う。モノグラフ作成時には前向き比較試験の成績のみならず、当該医薬品の特徴を表現するその他の基本情報についても適切な情報源を基に正確にまとめる。さらに翌回にはグループの再編を行い、それぞれ異なる医薬品の臨床成績を評価した学生で一つのグループを構成し、各学生が医薬品の基本情報と臨床試験成績をグループ内でプレゼンテーションして全ての医薬品の情報を共有したうえで採用品目選定を行う。平成26年度は新規経口抗凝固薬、平成27年度はDPP-IV阻害薬、平成28年度はHMG-CoA還元酵素阻害薬の選定をテーマとして、文献評価から採用品目選定までを実施した。本シンポジウムではこの実習を3年間実施して見てきた学生の取り組み姿勢や学習効果、および今後の課題について演者の考えを述べる。